

2022年9月1日

学校法人 芦屋学園
理事長 山田 英男 様

質問状

故福山重一総長の薫陶を受けた私たち芦屋学園卒業生一同は、将来に向けての芦屋学園の発展を心から熱望し、学園継続のために尽力したいと考えております。現状芦屋学園が抱える経営の危機的状況を憂慮し、芦屋学園運営に対して強力な支援を行うことが不可欠であることも十分認識しています。現状の様々な課題を踏まえ、学園の改革と改善を進めるためには、何よりも経営の透明化が最優先の課題と心得、巨額の資金が流出し、学園経営に著しい問題を残した前理事長高橋征主氏、大八木淳史氏の財務的不祥事を明らかにすることが、現理事会の重要な責務と考えております。学園の存立に関わる事象への精査と厳しい反省を踏まえ、今後益々厳しさを増すと予測される私学経営の諸課題への適切な対応と新たな方法論・可能性が導かれるものと確信するからです。「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。」これは、有名な物理学者アインシュタインの残した言葉ですが、私たちはこの思いで2022年3月10日学園経営の健全化を目的とする要望書を提出いたしました。

HPで公開されている芦屋学園令和元年（平成31年度）事業報告書を見るに、「本学園の置かれた状況は厳しく、全体的な改革、改善を強力に推進する必要がある。そのためには実行できる理事会体制を構築することが必須であり、経営改善5か年計画に掲げる目標達成には、理事会のガバナンスの整備と学園のコンプライアンスの強化が求められ、同時に経営の公平性・透明性の確保が大前提となっている。」と明記されています。

私たち同窓会は、現理事会がこの方針を継続し、改革・改善に向けて努力されていると理解し、私どもの要望書にも誠実にご回答をいただけるものと期待しておりましたが、令和4年5月付芦屋学園理事長山田英男様より当同窓会代表理事会長白石方一宛ての回答書は、私どもの質問に対する真摯なご回答とは言えず、卒業生の学園継続への危機感や思いが経営に従事される現理事の皆様へ全く伝わっていないのではないかと危惧しております。再々申し上げますように、過ちを繰り返さないために、過去の問題の原因と真相究明は不可欠であり、こうした学園改革の志こそが、不祥事によって失墜した学園への信頼を取り戻し、期待に応えるものと考えます。こうした背景から、私たちは、学園の卒業生一同を代表し、頂戴した回答においてお答えいただけていない点を含め、改めて質問状を再提出いたします。なお、質問状には、真相究明における理事会への提案も一部含まれております。

記

1. HP で公開されていない 2005 年 – 2007 年の試算表（P/L 相当）、財産目録（BS 相当）、資金繰り表、借入目録の開示。
2. 事業報告に記載された「経営改善 5 か年計画」の内容の開示と今までの予実比較評価表の作成および開示。特に教育活動収支・経常収支の予実績そして今後の見通しと経営安定のための具体的施策について
 - ・令和 3 年度幼稚園・中学高校・大学入学者数の大幅な減少と今後の見通し
 - ・令和 3 年度人件費が 1 億円以上増加した理由と今後の増収策
 - ・令和 4 年 3 月末時点での借入金 8.5 億円の返済計画と見通及び今後の資金繰り計画（銀行・信金を含む一般金融機関・日本私立学校振興・共済事業団等からの借り入れを含めた今後の資金繰り上の施策。）
3. 先の要望書（2022 年 3 月 10 日付）で御回答いただけなかった点に関して再度質問いたします。
 - ・高橋征主氏が理事長の頃、100 億円に上る現預金が 10 年間で残高がなくなり、その後、金融機関より借り入れをした事実確認と経緯説明
 - ・赤字決算の中で数千万円に上る退職金を高橋征主氏及び大八木淳史氏に支払った当時の理事長及び理事会に対する問題の究明及び責任追及の意志が現理事会にあるか無いか、またその根拠。
 - ・貴理事会は 3 億円の私学助成金という（我々の税金）公的資金を受けているにもかかわらず、毎年度のキャッシュフローがネガティブというのが異常な会計であり、それが不透明な予算計画との認識の上で金融機関より借り入れをしており、そのうえで寄付を募られているということの御認識がおりかどうかを全理事の皆さんから伺いたいと思います。
（注記 なお事業収支計算書概要を拝見するに令和二年度決算の教育活動収支額、経常収支差額が黒字化しているのは、寄付金によるものであり、それがなければ教育活動収支、経常収支ともに赤字であることを踏まえ、上記の質問を再度提起しております。）
 - ・令和 4 年 5 月の回答書において末尾に「全く事実と異なる点が複数ございます。」との記載がありますが、具体的にその内容をご説明いただきたい。

4. 現理事会への提案事項

・「第三者委員会の設置」

現理事会で過去の真相究明が困難であるとする場合、あるいは過去の真相究明を行わず、現状のまま学校経営を継続する場合、私たち卒業生は健全な学園経営の持続と保全のために独立した第三者委員会設置による真相の究明及び情報の開示を要求いたします。

・「中立の外部専門家による会計監査の実施」

資金の不透明な流れを精査するために、高橋征主氏及び大八木淳史氏の理事長在任中の支出内容に関して、独立の外部監査チームによる帳票類の精査が必要と考えます。そのために中立的立場の会計事務所もしくは公認会計士による帳票類の監査を要求いたします。

こうした調査を通じ、原因究明により問題解決の方法が明らかになり、最終的には学園が志向する財務の透明性、公平性の確保、学園一体となった改革案の実行が可能になると考えます。学園の経営危機を克服するためにも 改めて現理事の皆様からこの質問状に対する真摯なご回答をいただきたく強く要望いたします。また私たち同窓会に対して学園理事会の皆様からのご要望があれば積極的に耳を傾け、協議したいと考えております。真相解明を前提として、私どもアシヤカレッジ同窓会は、芦屋学園に対して強力な支援・助力をお約束いたします。

なお、当質問状は原文のまま同窓会ホームページに本日以降速やかに掲載する事も理事会の了承を得ておりますことを追記させていただきます。

以上

一般社団法人芦屋大学・短期大学同窓会

代表理事 白石 方一